

### 3 県民の「子育て」等に関する意識

結婚に対する負担感			未婚		既婚	
			男性	女性	男性	女性
	非常に感じるときがある		11.1%	3.6%	2.6%	9.6%
	どちらかといえば感じる		42.6%	52.9%	30.7%	40.5%
	どちらかといえば感じない		24.6%	22.2%	31.7%	22.7%
	まったく感じない		7.5%	9.5%	26.9%	15.5%
	どちらともいえない		14.1%	11.8%	8.1%	11.7%
未婚者の結婚に対する意識(20～40歳代)	いずれ結婚するつもり		一生結婚するつもりはない			
	全体	83.7%	13.3%			
	男性	83.5%	13.9%			
	女性	84.0%	12.3%			
「子育て」の意向 山形県で子育てをしたいか？	是非、山形県で子育てをしたい		17.8%	} 94.2%		
	山形県で子育てをしたい		42.8%			
山形県で子育てをしてもよい		33.6%				
		できれば山形県外で子育てをしたい		4.9%		
山形県で子育てをしたい 主な理由トップ3	山、川、海などの自然環境に恵まれているから		81.5%			
	親と同居したり近くに住んだりできるから		46.9%			
	適当な広さの住まいを確保しやすいから		40.9%			
育児による疲労感やストレス			共働き世帯		片方のみ働いている世帯	
	強く感じている		7.4%		12.2%	
	感じている		26.7%		27.0%	
	やや感じている		36.6%		41.9%	
	特に感じていない		27.4%		14.9%	
父親が子育てに参加するようになる方法	父親は忙しいのが当たり前で仕方がない		4.9%			
	父親が自覚し積極的に参加するように努めるべき		44.9%			
	父親が子育てに参加できるよう行政や企業がもっと支援すべき		27.6%			
	学校や地域で父親の子育てへの参加を促すような機会を充実させる		10.2%			
	個々の問題だから家庭に任せればよい		8.2%			
必要な子育て支援は？ トップ4	子育てに関する費用の負担の軽減		夫：63.5%		妻：75.7%	
	残業時間の短縮・休暇の取得促進・育児休業制度の整備など		夫：38.1%		妻：48.1%	
	企業に対する職場環境の改善についての働きかけ					
	子連れでも出かけやすく楽しめる場所を増やす		夫：30.9%		妻：42.3%	
	保育施設の充実		夫：19.9%		妻：26.2%	
必要な子育てに関する費用の軽減は？ トップ4	毎月の養育費に対する助成		夫：40.6%		妻：44.8%	
	保育費用（保育所や幼稚園への預け入れなど）に対する助成		夫：32.9%		妻：39.8%	
	子どもの医療費に対する助成		夫：22.4%		妻：29.8%	
	出産や入学時における一時金の支給		夫：19.1%		妻：30.4%	
未婚、既婚、離婚・死別の別での幸福実感 (男女計)	男	未婚：5.89	男	未婚：5.56	女	未婚：6.35
	女	既婚：7.06	性	既婚：6.93	性	既婚：7.19
	計	離婚・死別：6.45		離婚・死別：6.10		離婚・死別：6.57

資料：山形県「山形県の少子化の要因・背景に関する調査」「『家庭・家族に関する意識調査』報告書」

「保育サービスについてのニーズ調査」「平成15年度新世紀やまがた課題調査」「やまがた子育て環境課題調査」

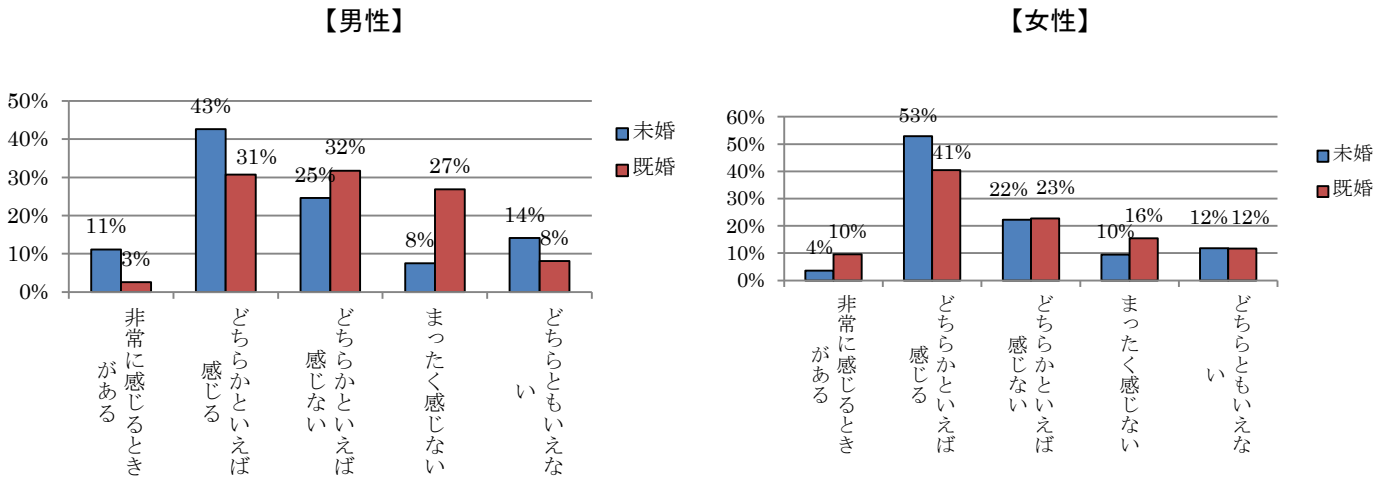
「平成25年度 県政アンケート調査」「平成27年度 県政アンケート調査」



(1) 「結婚」に対する意識 (図3-1～3)

平成17年に行われた「家庭・家族に関する意識調査」によると、男女ともに未婚者の「どちらかといえば感じる」の割合が最も高いことが分かった。

■ 図3-1 結婚に対する負担感

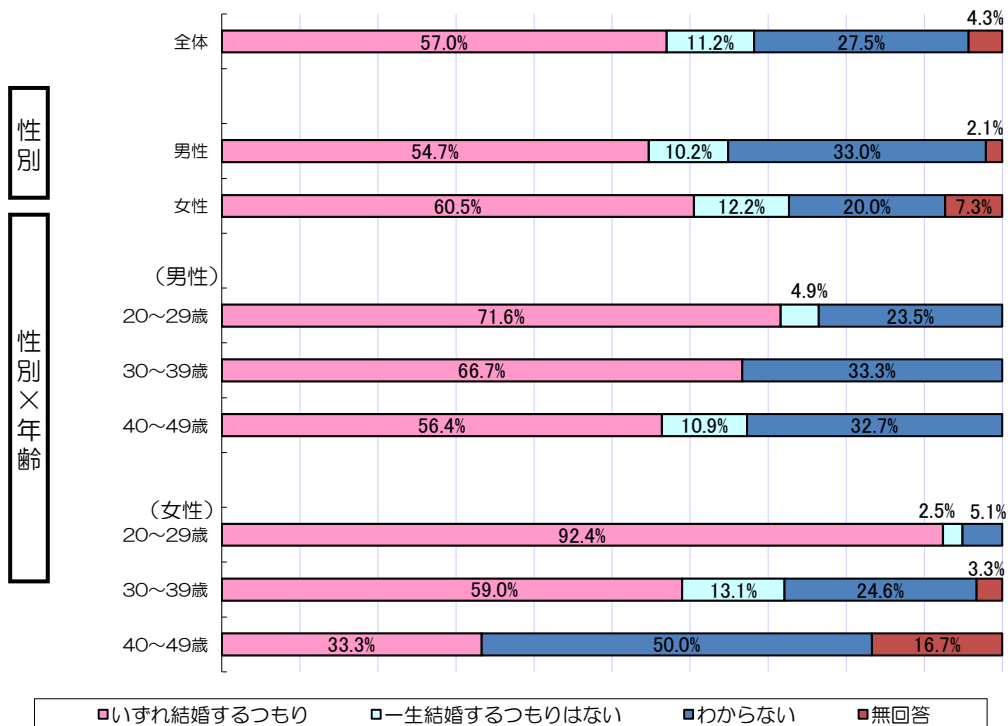


(資料)山形県『家庭・家族に関する意識調査』報告書(平成17年2月)

■ 図3-2 未婚者の結婚に対する意識

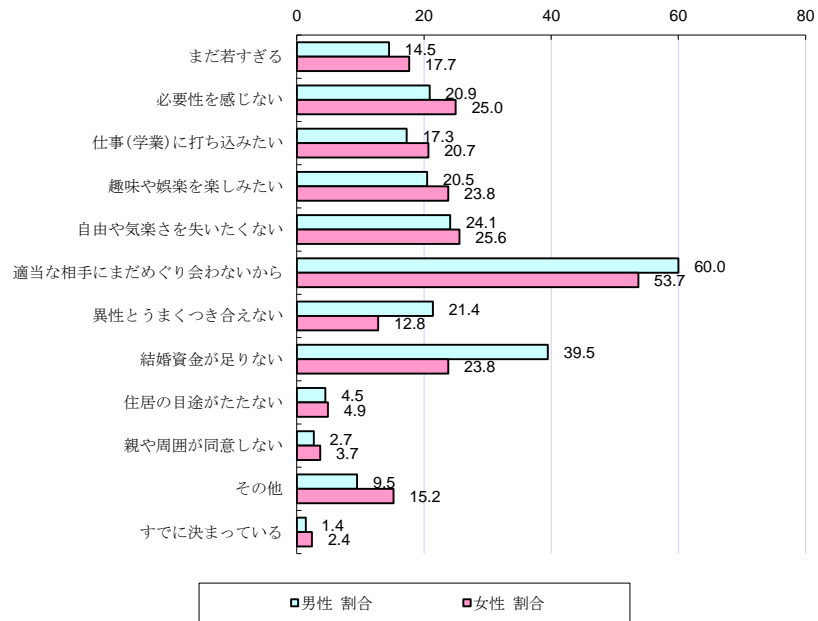
平成27年に実施された県政アンケートによると、20歳代～40歳代未婚者の約6割は「いずれ結婚するつもり」と考えていることがわかった。

また、未婚者が結婚しない理由としては、「適当な相手にめぐり会えないから」の割合が最も多く、次いで「結婚資金が足りないから」の割合が多かった。



資料：「県政アンケート調査」(平成27年11月)

■ 図3-3 未婚者が結婚しない理由（20～40代）



資料：「県政アンケート調査」（平成27年11月）

(2) 「子育て」の意向（表3-1～3 図3-4）

平成11年に行った少子化の要因・背景に関する調査及び保育サービスについてのニーズ調査によると、山形県で子育てをしたいと考えている県民（「是非、山形県で子育てをしたい」＋「山形県で子育てをしたい」＋「山形県で子育てをしてもよい」）は約9割と多く、その理由は、「自然環境の良さ」、「親との同居・隣居」、「適当な住まいの確保しやすさ」となっている。その一方で、育児による疲労感やストレスを感じる親が約7割おり、特に片方のみ働いている世帯でその傾向が強いようである。

また、平成15年度新世紀やまがた課題調査によると、「育てる」ということの重要性については、「子どもが健康なこと」がトップで、11年度と比較すると「安心して子どもを産めること」、「子どもに合った教育が受けられること」及び「子育ての相談できる相手がいること」などが増加している。

■ 表3-1 山形県で子育てをすることにに対する意向

問：山形県の自然、文化などの環境全般を考慮して、あなたは山形県で子育てをしたいと思いますか。

是非、山形県で子育てをしたい	山形県で子育てをしたい	山形県で子育てをしてもよい	できれば山形県外で子育てをしたい	無回答	合計
54	130	102	15	3	304
17.8%	42.8%	33.6%	4.9%	1.0%	100.0%

資料：山形県「山形県の少子化の要因・背景に関する調査」（平成11年10月）

■ 表3-2 山形県で子育てをしたい主な理由

問：（「是非、山形県で子育てをしたい」「山形県で子育てをしたい」「山形県で子育てをしてもよい」と答えた人に…）あなたがそのように考えるのはなぜですか。あなたの考え方に近いものを3つ以内で選び、○をつけてください。

山、川、海などの自然環境に恵まれているから	祭りなどの行事が盛んで季節感があるなど、地域文化に恵まれているから	適当な広さの住まいを確保しやすいから	親と同居したり近くに住んだりできるから	近所の人々とのふれあいがあり、互いに助け合うなどあたたかい地域だから	保育サービスを利用しやすいなど、子どもの保育環境に恵まれているから	共働きで子どもを育てることが自然に受け止められる環境だから	その他	無回答	全体
233	54	117	134	76	7	28	16	2	286
81.5%	18.9%	40.9%	46.9%	26.6%	2.4%	9.8%	5.6%	0.7%	100.0%

資料：山形県「山形県の少子化の要因・背景に関する調査」（平成11年10月）

■ 表3-3 育児による疲労感やストレス

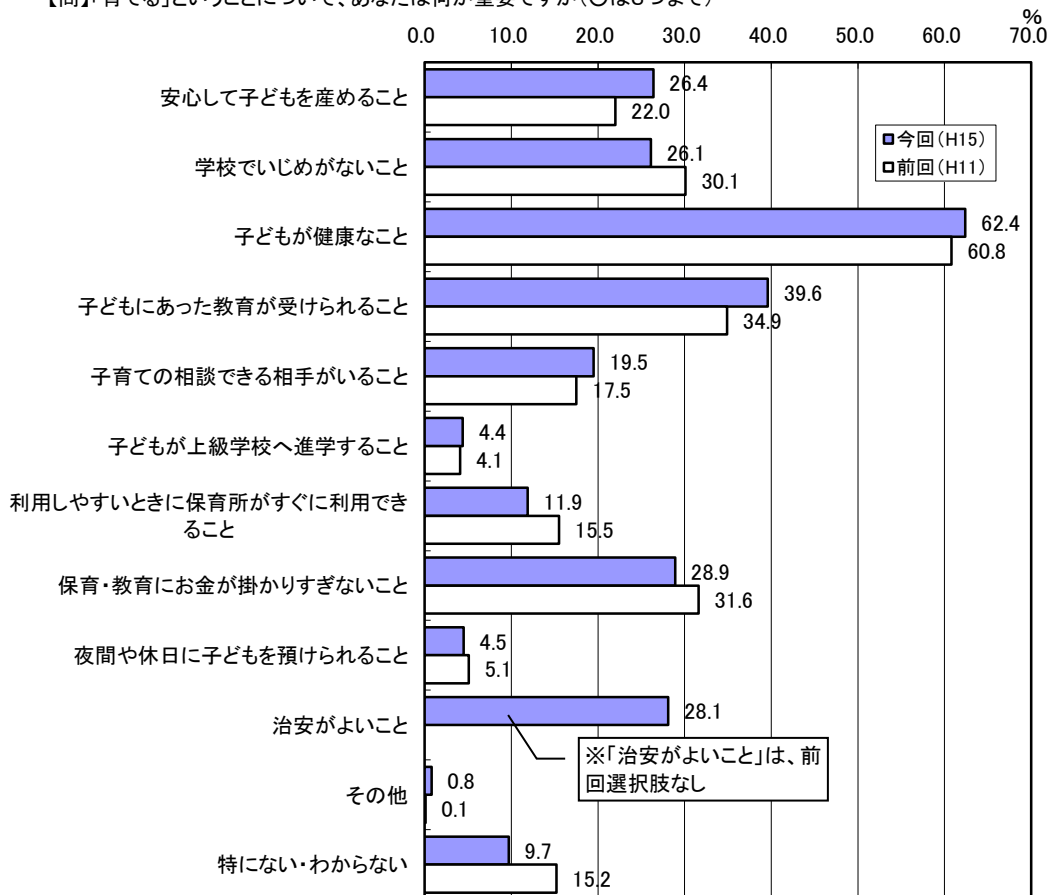
問：あなたは、育児による疲労感やストレスをどの程度感じていますか。最も近いものを1つ選び、○をつけてください。

	強く感じている	感じている	やや感じている	特に感じていない	無回答
全体(N=381)	8.1%	25.2%	38.8%	25.7%	2.1%
共働き世帯(N=270)	7.4%	26.7%	36.6%	27.4%	1.9%
片方のみ働いている世帯(N=74)	12.2%	27.0%	41.9%	14.9%	4.1%

資料：山形県「保育サービスについてのニーズ調査」（平成11年10月）

■ 図3-4 「育てる」ということの重要性

【問】「育てる」ということについて、あなたは何が重要ですか（○は3つまで）



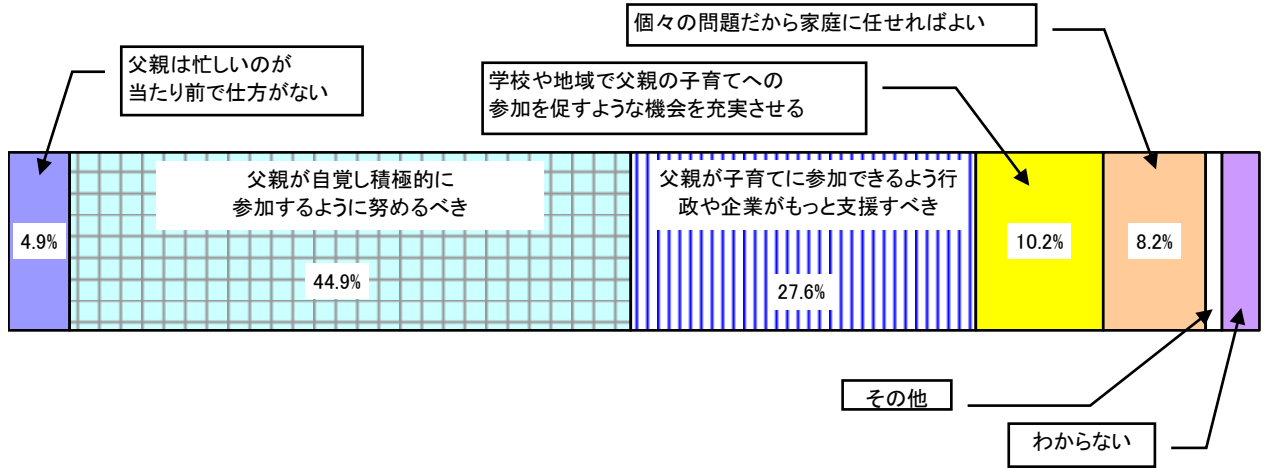
資料：山形県「平成15年度新世紀やまがた課題調査」

(3) 父親の子育て (図3-5)

父親の子育てについては、自覚すべきという回答がおよそ半数であった。その他、行政や企業の支援を求める声も3割弱ある。

■ 図3-5 父親が子育てに参加するようになる方法

【問】日本は他の国に比べると、「父親」が子どもに関わる時間が少ないという調査結果が出ています。父親が子育てに参加するには、どうすればよいと思いますか。(〇は1つ)



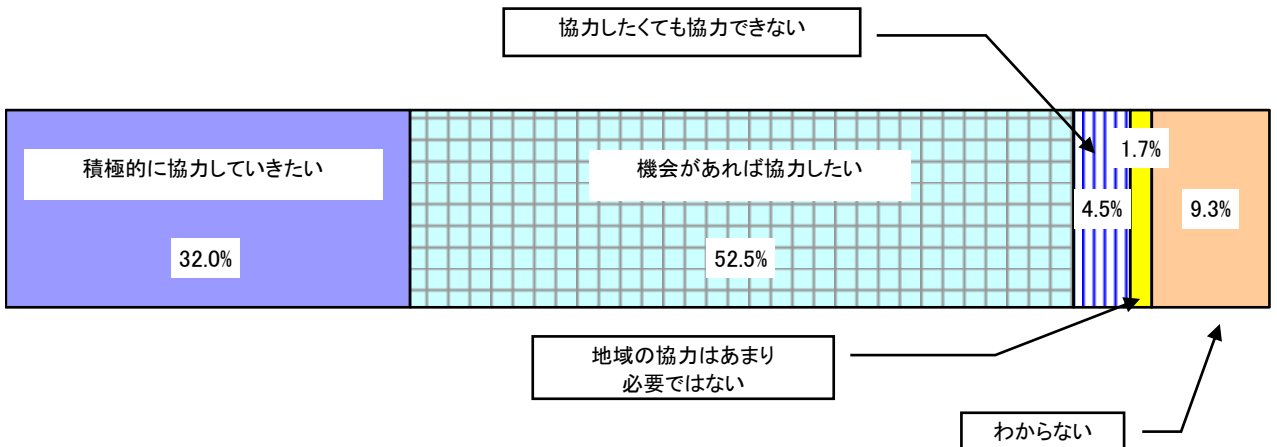
資料：山形県「平成15年度新世紀やまがた課題調査」

(4) 地域における子育て支援 (図3-6)

地域における子育てに協力したい人は8割を超えている。

■ 図3-6 「子どもを地域で育てよう」という言葉について

問:「子どもは地域で育てよう」という言葉がありますが、あなたはどのように思いますか。(〇は1つ)



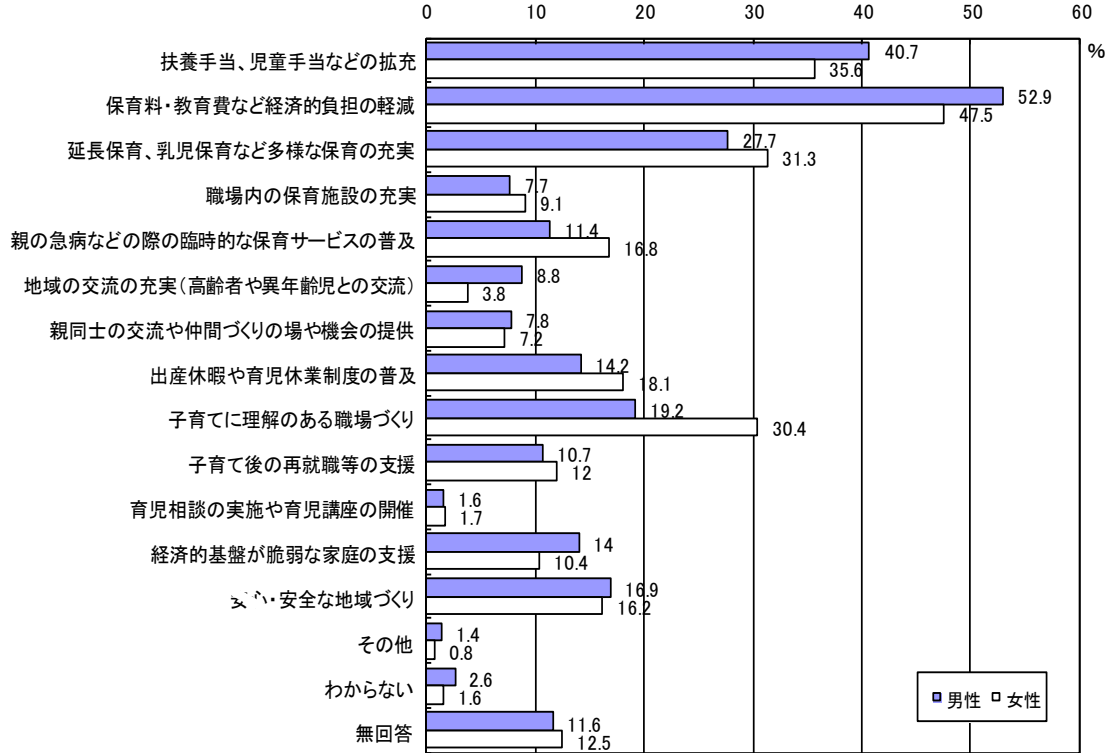
資料：山形県「平成15年度新世紀やまがた課題調査」

(5) 必要な子育て支援とは・・・(図3-7)

子育てに際して重要だと思える支援については、「保育料・教育費など経済的負担の軽減」、「扶養手当、児童手当などの拡充」、「延長保育、乳児保育、病児・病後児保育など多様な保育の充実」が上げられている。

■ 図3-7 子育てに際して重要だと思える支援

【問】子どもを育てやすい環境づくりをするには、どのような取組みが必要だと思いますか。(〇は3つまで)



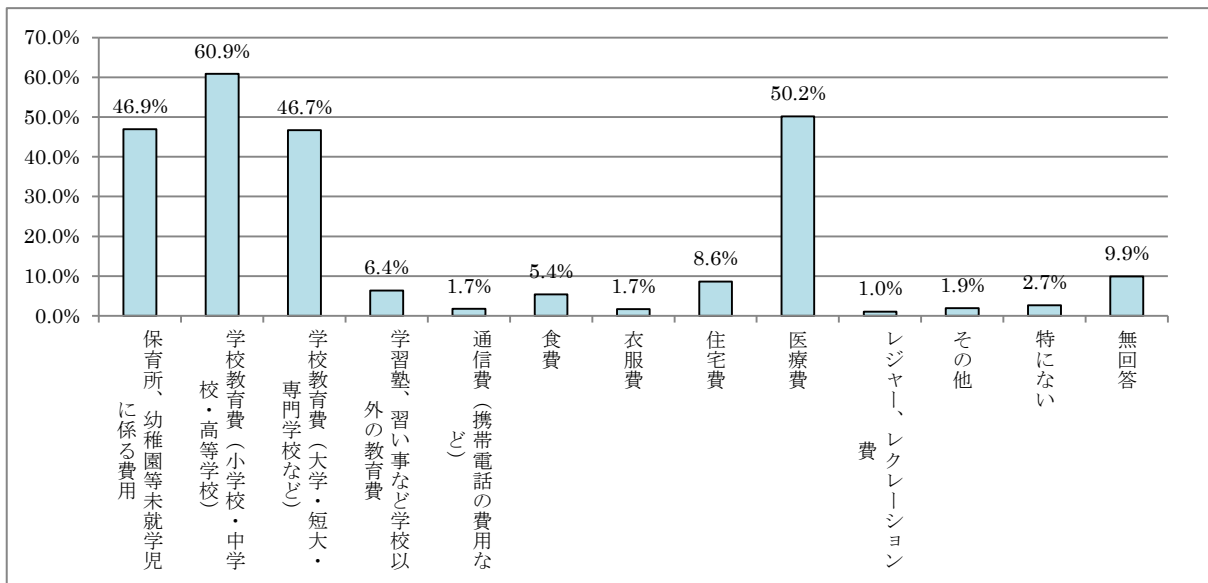
資料：「県政アンケート調査」(平成27年5月)

(6) 必要な経済的支援について(図3-8)

必要な経済的支援については、「学校教育費」及び「医療費」の割合が最も高かった。

■ 図3-8 必要な経済的支援について

問：子育てに関する費用の軽減では何が必要だと思いますか。(〇は2つ)



資料：「県政アンケート調査」(平成25年11月)

(7) 持つつもりの子ども数と理想の子ども数（図3-9～11）

平成27年に実施した県政アンケートによると、持つつもりの子ども数の平均は2.0人であった。

一方、理想の子ども数の平均は、2.5人であり、持つつもりの子ども数が理想の子ども数を下回った。

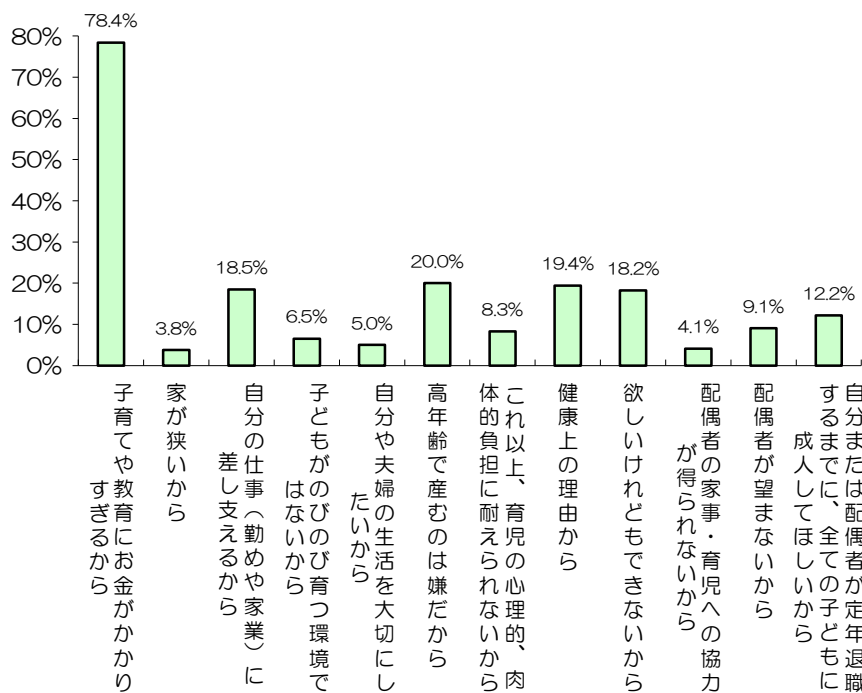
持つつもりの子ども数が理想の子ども数を下回る理由としては、昨年同様「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」の割合が最も高く、次いで「高齢で産むのは嫌だから」の割合が高いという結果となった。

■ 表3-4 理想とする子どもの数と持つつもりの子ども数の平均

	理想とする 子どもの数 (平均)	現在の子ども の数 (平均)	今後予定して いる子どもの数 (平均)	持つつもりの 子どもの数 (平均)
全 体	2.5	1.6	0.4	2.0

資料：「県政アンケート調査」（平成27年11月）

■ 図3-9 持つつもりの子ども数が理想の子ども数を下回る理由



資料：「県政アンケート調査」（平成27年11月）



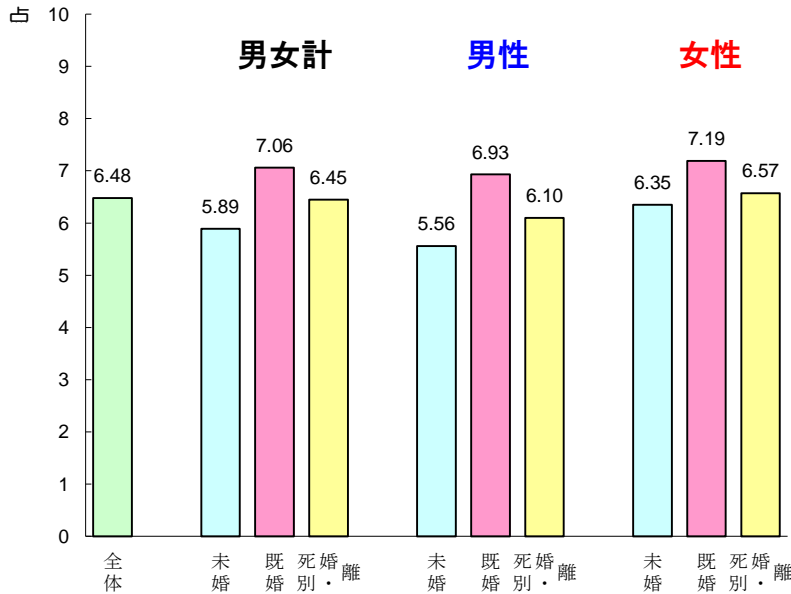
(8) 結婚や子育てに関する県民の幸福実感 (図3-10、11)

平成26年に実施した県政アンケートによると、未婚者に比べ既婚者の幸福実感が高い傾向があることが分かった。

また、子どもがいる人の方が幸福実感が高く、さらに、子どもの数が多いほど幸福実感が高くなる傾向があることが分かった。

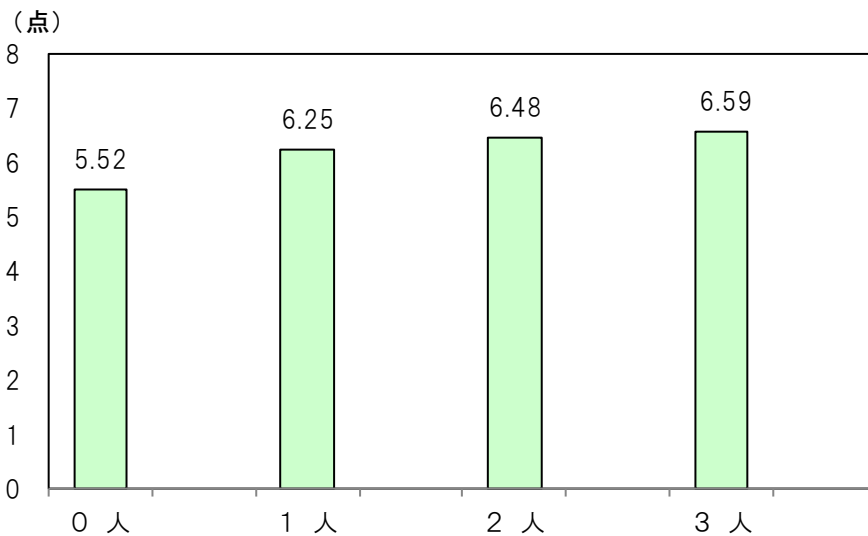
【問】日々の暮らしの中でどの程度幸せを感じていますか。「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点とすると、何点くらいになると思いますか。

■ 図3-10 未婚、既婚、離婚・死別の別での幸福実感 (平均点)



資料：「県政アンケート調査」(平成27年11月)

■ 図3-11 子どもの数と幸福実感 (平均点)



資料：「県政アンケート調査」(平成26年12月)